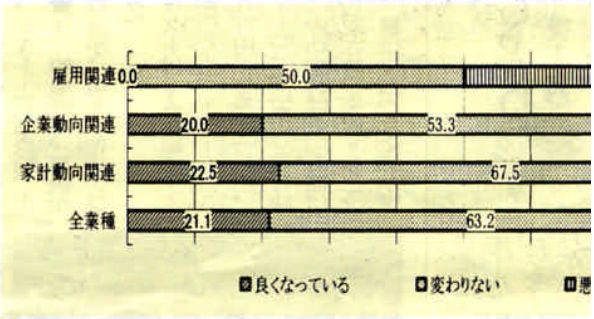
停滞傾向続きそう

第19回いわき景気ウオッチャー調査（東日本国際大地域経済・福祉研究所、いわき商工会議所主催）の結果が先月27日、発表された。調査は8月に実施した。いわき地域の景気について「一時持ち直しとなったものの、不安材料があり停滞傾向」と分析している。

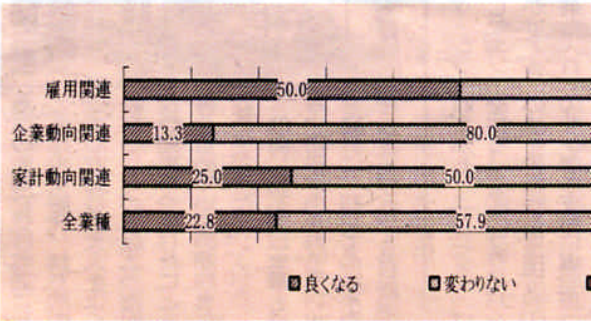
全業種の現状判断DI（景気動向指数）は、2月と5月の調査で下降が続いたが今回は、4・7ポイント増の50・9と持ち直した。構成比では「変わりない」が5月調査より10・4ポイント増の63・5ポイント減の25・0の低水準だ。

先行きに関しては、全業種のDIは0・4ポイント増の51・8、構成比では「変わらない」が57・9%を占める一方、「良くなる」は1・7%減の22・8%だった。「悪くなる」は0・4%増で、現状維持になると判断される。主要業種別の構成比を見てみても、「変わらない」の割合は家計動向関連で50・0%、企業動向関連で80・0%など、ここにも現状維持の傾向が表れている。

〈現状判断構成比・主要4業種〉



〈先行き判断構成比・主要4業種〉



鈴木　和隆
いわきビジネスアイデア・プランコンテスト実行委員長

いわき ビジネスアイデア・プラン コンテスト

⑥ 目利き委員に立ち向かえ!!

審査は検証と評価の機会

いわきビジネスアイデア・プランコンテスト2006（IBPC2006）に応募する意義は、何だろうか!?　コンテストの標語は、「賞金50万円に、夢をぶつけろ!!」である。主催者が、賞金稼ぎを奨励しているようなものだ。賞金だけが目的では寂しいが、主催者としては、それもありと割り切っている。目利き委員会（委員長・庄司秀樹東洋システム代表取締役）を10人で構成している。その目利き委員による審査の過程で、賞金稼ぎを見破るようにしている。目利き委員と応募者との格闘だ。

コンテストに応募する本来の意義は、プランやアイデアの検証と評価だろう。ブラシアップともいう。

応募者はまず、応募用紙を作成しなければならない。応募者自身による検証だ。自分の考えを文章にすることで、ビジネスの形がはっきりしてくる。書類審査後、プラン部門には、公開審査がある。目利き委員や一般の人を前にして、15分程度のプレゼンテーションだ。その後、目利き委員から、鋭い質問が続く。目利き委員は、どうすればそのプランがビジネスとして成立するのか、その視点から質問する。目利き委員の質問は、プランの弱点を克服するためのアドバイスと考えればよい。あるいは、第三者による評価だ。

コンテスト後、希望する応募者には、入賞の有無にかかわらず、目利き委員による無料個別相談が提供される。プラシアップが進む。事業計画を作成し、起業・創業するところまで支援する。

検証と評価を踏まえ、起業に向けて、アイデアやプランの熟度を高めていくことが応募の、強いてはコンテストの意義だ。応募が起業のきっかけになれば良い。実際、コンテストに応募し、起業を実現させたり、新しい事業の展開をした人は多い。コンテストは、起業の踏み台なのだ。

募集期間は、16日まで。詳しい内容と応募用紙などは、ホームページに掲載してある。http://www.iwaki-liison.co.jp/IBPC2006/

電話での問い合わせは、事務局のいわきリエゾンオフィス企業組合＝電話（46）2720＝まで。

（すずき・かずたか＝いわきリエゾンオフィス企業組合理事長）

ふじい医院
院長　藤井邦彦
いわき市泉町一丁目3-13（泉駅前）　☎56-2288

案内広告
■1段4行（46文字）4,725円（税込）
■同一広告5回以上掲載は1割引
■本社広告部☎23-1666 ■小名浜支社☎54-2666 ■常磐支局☎